

眼科学

担当指導医師

●本院

教授：黒坂 大次郎

特任准教授：橋爪 公平

講師：新田 順福、及川 誠、橋浦 哲哉、今泉 利康

助教：清野 太郎、福田 一央、大島 広之、亀井 翔太

学修方針（実習概要等）：

1. 検査においては、下記の基本的医療行為の水準1～3のうち、許容されるものを積極的に実施させ、眼科に特有な検査の原理、手技および結果の意義を習得させる。
2. 治療については眼科領域の治療法の目的と方法を理解させる。特に、手術については助手の役割を分担させ、眼科顕微鏡手術の特徴と助手としての基本手技を体験させる。

教育成果（アウトカム）：

眼科臨床実習において、1～5の項目を学習することで、将来の一般臨床医として必要な眼科学の基礎的知識と技能の習得に到る。

1. 主要眼科疾患の知識
 2. 眼科検査の特徴とその手技
 3. 眼科手術の特殊性とその基本的手技
1. 主要眼科疾患の知識を自学、見学、参加、質問することでプロフェッショナリズムとしての知識、態度を身につけ、コミュニケーションとチーム医療における自身の位置を確認し、医学生としてふさわしい関係を築く（ディプロマポリシー2, 4, 6）
 2. 眼科検査の特徴と手技を自学、見学、参加、質問することで豊かな教養と幅広い知識を身に着ける使命を自覚する（ディプロマポリシー4）
 3. 眼科手術について自学、見学、参加、質問することで感染対策の医療安全を会得する。動物眼での手術経験を通して、眼科手術を安全に遂行するための医療倫理（自己研鑽、最善の医療をもたらす務め、容易に会得できる技術ではないこと）を理解し、プロフェッショナリズム（自己研鑽、優れた技術の会得）の必要性について理解する。（ディプロマポリシー1, 2）

到達目標（SBOs）：

外来実習

1. 眼科の基本的検査法（視力、屈折、細隙燈顕微鏡、直像鏡など）の各検査の理解と実技を修得し説明できる。
2. 医療スタッフの一員であることを自覚し、談笑など、患者を不快にさせる言動を慎む。狭小な外来で患者・医療スタッフに迷惑になる行為を行わない。

病棟実習

1. 指導医とともに患者の診察、検査、治療に立ち合い、また許される範囲でこれらを実地に行うことができる。

2. 医療スタッフの一員であることを自覚し、談笑など、患者を不快にさせる言動を慎む。

手術室実習

助手の役割を分担させ、眼科顕微鏡手術の特徴と助手としての基本手技を体験する。

実習内容：

1. 学生は指導医と行動を共にする。
2. 手術日には手術室に入り、外回りとして患者の搬送、可能な状況であれば手術助手、手術材料の出し入れ、手術記録、DVD 記録とその整理などに参画する。
3. 実習によって、医師のあり方、患者および家族との接し方、医の倫理、Quality of Life 生命の尊厳などについて考える。

注意：

Webclass に実践内容のポートフォリオを入力すること。内容を教員が評価し、随時フィードバックする。

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	個数	使用目的
診断用機械	試視力表	1	視力測定
診断用機械	検眼用レンズセット	1	視力測定
診断用機械	自動屈折計	1	屈折の測定
診断用機械	細隙燈顕微鏡	1	角膜、前房、虹彩、隅角、水晶体、硝子体、眼底の検査
診断用機械	直像鏡	4	眼底の検査
診断用機械	倒像鏡	1	眼底の検査
実習用機械	複合機 一式	1	臨床実習にて使用
実習用機械	クロスリンカー	1	臨床実習にて使用
実習用機械	タブレットパソコン iPad Pro Wi-Fi 256GB	1	臨床実習にて使用
実習用機械	自動視野計データファイリングシステム	7	臨床実習にて使用